

『「世界津波の日」2018高校生サミット in 和歌山』

- 日時:平成30年10月31日(水)、11月1日(木)
- 主催:和歌山県、和歌山県教育委員会、広川町、広川町教育委員会
- 共催:国連国際防災戦略事務局(UNISDR)駐日事務所
- 後援:国土強靱化推進本部、内閣府、外務省、文部科学省、国土交通省、気象庁、経済協力開発機構(OECD)、東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA) ほか
- 場所:和歌山ビッグホエール(和歌山市)ほか
- 趣旨:防災の知見と地震津波の脅威を後世へ語り継ぎ、必要な防災、減災、迅速な復旧復興、国際連携に資する施策を総合的かつ計画的に実行することで、地震津波から国民の生命、身体、財産の保護、国民生活及び国民経済に及ぼす影響を最小化できる、国土強靱化を担う将来のリーダーを育成する。
- 参加者:海外招へい者
47か国、293名(うち高校生244名)
国内参加校
49校、186名(うち高校生134名)
- 成果:高校生が12のグループに分かれて「災害について知識を得る」等の3テーマについて討議し、各グループからの意見や「稲むらの火」が伝える教訓を、世界に伝え広げていくとした「稲むらの火継承宣言」をとりまとめた。

